

北海道浮魚ニュース

平成10(1998)年度14号 (通巻 No.35)

1998年9月7日

北海道立中央水産試験場	Tel : 0135-23-8707	Fax : 0135-23-8709
釧路水産試験場	Tel : 0154-23-6221	Fax : 0154-23-6225
函館水産試験場	Tel : 0138-57-5998	Fax : 0138-57-5991
稚内水産試験場	Tel : 0162-23-2126	Fax : 0162-23-2134
網走水産試験場	Tel : 0152-43-4591	Fax : 0152-43-4593

◎道央～道北日本海スルメイカ調査結果

①スルメイカの分布密度と大きさ

1998年8月25日から9月2日、道西日本海で調査船おやしお丸によりスルメイカ調査を行いましたので、その結果をお知らせします。

スルメイカの分布密度(CPUE:自動いか釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)は調査海域の沖合および北方で11~23と高く、沿岸寄りでは1~3と低くなっていました(図1)。前年に似た分布パターンでした。平均CPUEは9.4で前年(おやしお丸のみで8.5)並みでした。

スルメイカの外套長は15~30cm、モード(各調査点で最も多く漁獲されたイカの外套長)は19~27cmでした(図2)。調査海域全体の外套長組成から、前年よりもやや大型のイカが多く分布していました(図3)。

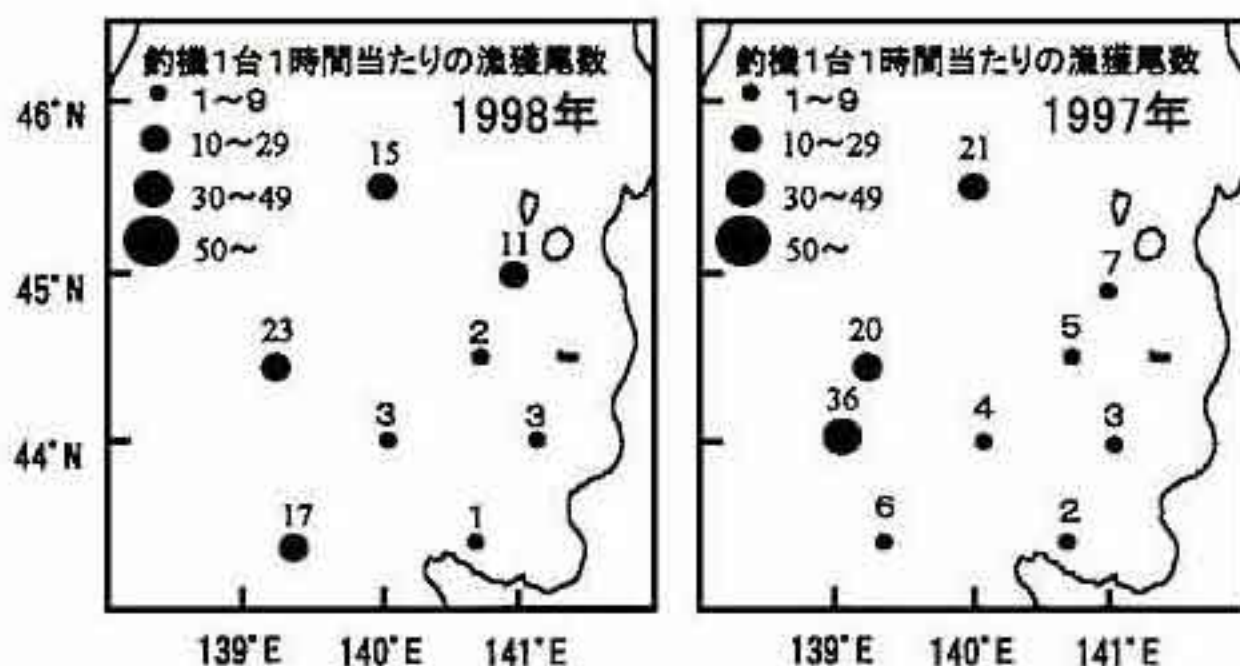


図1 スルメイカの分布密度(CPUE:自動イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数)
左図:1998年 右図:1997年

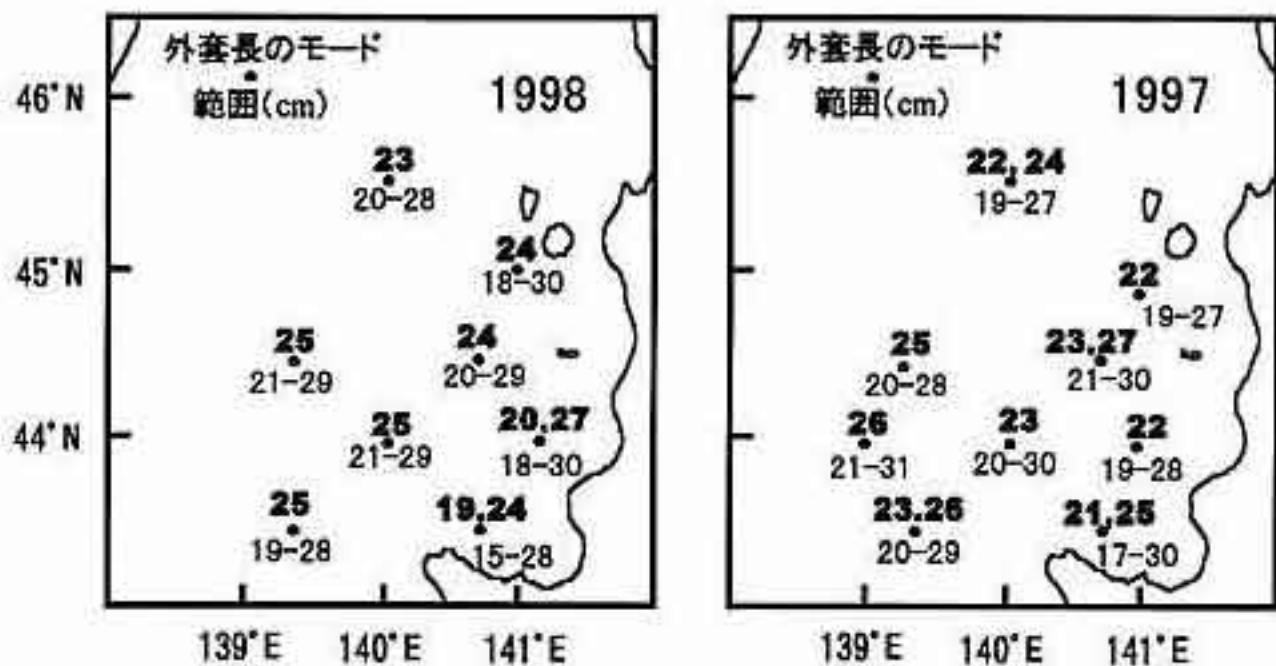


図2 スルメイカの外套長の範囲とモード
左図：1998年 右図：1997年

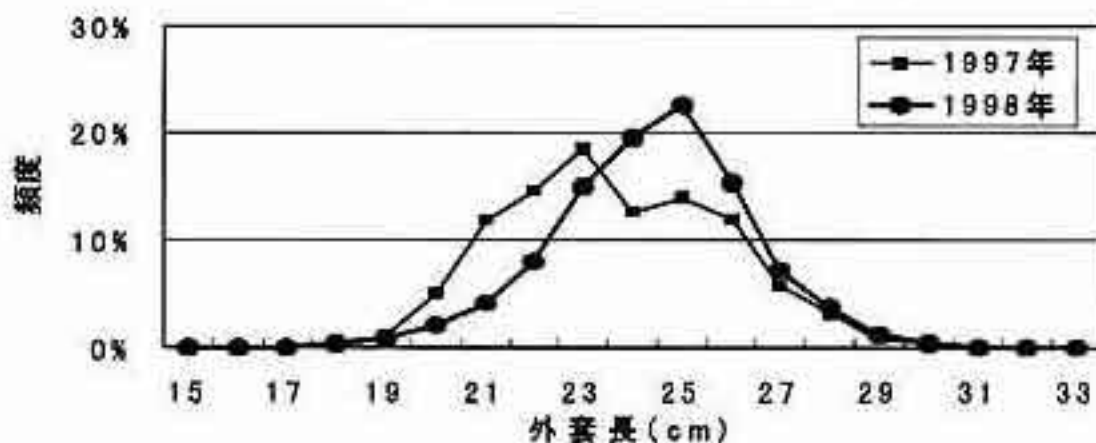


図3 調査海域全体での外套長組成

②水温分布

調査海域の50m 深水温分布は2~15℃台でした(図4)。

前年と比較すると石狩湾付近の沿岸寄りで15℃台と高く、沖合では前年並みでした。

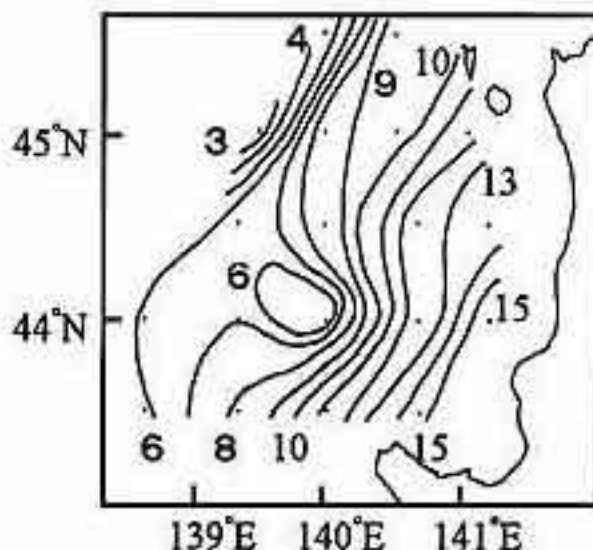


図4 1998年の8月下旬から9月上旬の50m 深水温分布

③標識放流と南下

前年の標識放流イカは武蔵堆の西方で放流した個体は9～10月に大和堆付近の本州沖合で再捕され、礼文島の西方沖合で放流した個体は9～10月に道北海域で再捕されました(図5)。

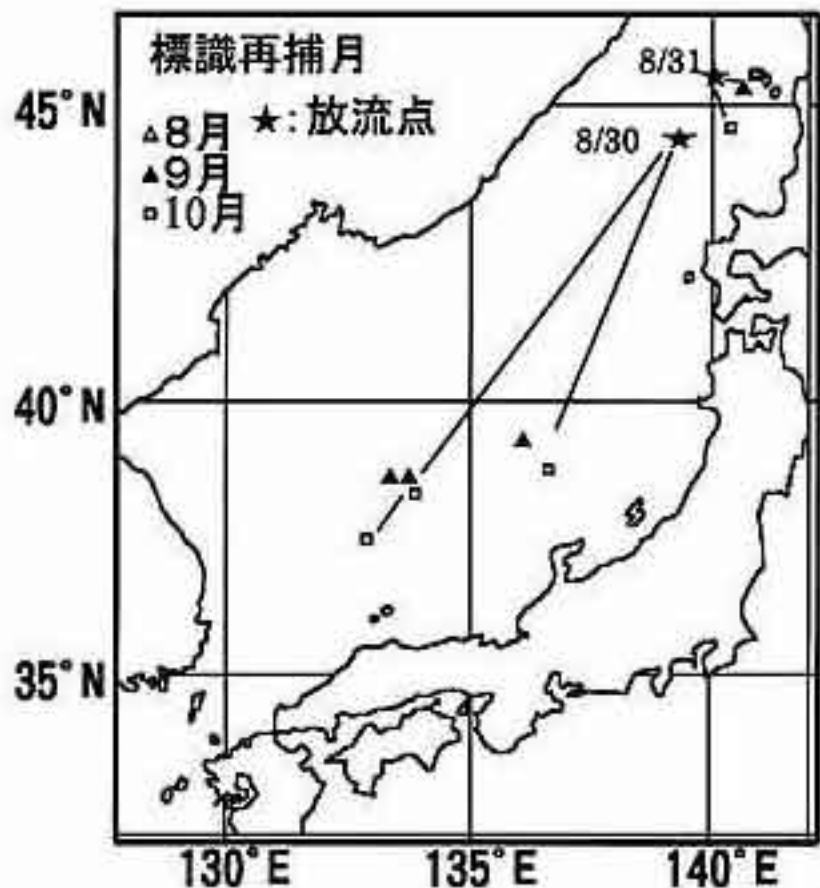


図5 標識放流再捕結果(1997年8月下旬～9月上旬放流)

《標識放流再捕報告のお願い》

スルメイカが多く漁獲された3カ所の調査点で、合計1,649尾の標識放流を行いました(表1)。標識イカを見つけた方は漁獲した月日、場所、標識札の番号・記号、漁法、イカの大きさなどを最寄りの水産試験場までお知らせください。記念品を差し上げております。

表1 スルメイカ標識放流状況(1998年)

放流月日	放流場所	標識の記号・番号	放流尾数
8月28～29日	44°29'N、139°20'E	中水 3601～4200	600
8月29～30日	45°30'N、140°00'E	中水 4251～4800	549
8月30～31日	45°00'N、140°59'E	中水 4801～5300	500

(文責：中央水試資源管理部)